奈良八重桜を尋ねて

今から20年程前に、文華苑で自生していた小振りの八重桜を発見したことがあります。その木は非常に弱り、今にも枯れそうでした。何とか活かさなければならないと挿し木や接ぎ木も行いましたが、活着には到りませんでした。そのうちに、電線の妨げになると天を切られてしまったのです。切り口の処置もされていなかったこともあって枯れてしまいました。残念ではありましたが、当時は、それほど関心もなかったのです。その木のことを思い浮かべてみますと、奈良八重桜とは少し違っていた様に思います。花は薄紅色であった記憶が残っております。桜に対する知識も乏しく、花が咲き始めるか散る寸前か分からなかったのが実状ですから奈良八重桜の可能性もあったかも分かりません。文華苑には、自然に生えている桜も多く、山桜系、大島桜系、かすみ桜系と開花期を広げています。その中で、かすみ桜系の開花が最も遅く、奈良八重桜はかすみ桜の突然変異によって生まれたと言われておりますので、開花期も最も遅い方に位置します。花は中輪で花弁が多く、蕾の時は紅色を呈し、花開くと白色になり、後薄紅色に変化します。可憐で上品な花だと言えます。奈良八重桜を図鑑で見たことはあっても余り関心を持っていなかったことは事実です。一昨年位からではないでしょうか。淡路博がきっかけになったようです。

昨年、新聞の記事を元に管理課長の働きかけで貴重な奈良八重桜を文華館に頂けることになったのです。この話は奈良の八重桜を愛でる会からであります。この会は、１人でも多くの人に奈良八重桜を知ってほしい、魅力を広めたいとの思いで、記念植樹や奈良市内の小中学校などに苗を寄贈されたりしておられます。文華館では本家本元の奈良八重桜を文華苑に植え付けることが出来るのでありますから願ってもない話だと館員一同感激しておりました。桜の植付け時期も考慮され、11月26日、念願の奈良八重桜の苗木が入荷しました。苗木と言っても樹高３m程ありますから立派なものです。植え付け地は粘土質のため枯れたら大変と、客土も行い、水捌けも客土の底面に設けました。今年の４月９日に植樹祭が奈良の八重桜を愛でる会主催で行われました。管理課長の意向もあり、支柱や看板だけは館員の手作りのものにしました。４月になって芽が動き出してきたので、枯れる心配も少なくなりました。このような状態で先ず枯れることはありません。式典は、奈良市長をはじめ、財団理事長、近畿日本鉄道副社長、大和文華館館長、奈良の八重桜を愛でる会会員他総勢70名以上の方々の参加があり、格も盛大に執り行われました。今後、この桜を私達館員の手で立派に育成することは、大変なことでもありますが、それ以上にやりがいのある仕事になりそうです。

４月15日、待ち望んでいた花が２輪開花しました。蕾は、沢山付いていたのに、残念ながら、今年は樹勢がないため、生理的に開花せず、蕾のまま落ちてしまった花もありました。開花は、ほんの数日でありましたが、その感動は、目に焼き付きました。

大正11年４月下旬に東大寺知足院の裏山の八重桜が奈良八重桜であると植物学者三好学博士が過去の文献から確定され、天然記念物に指定されたのです。それからその穂木を元に挿し木や接ぎ木され、県内外に殖やされたことでしょう。

奈良市内には、現在まで相当数の奈良八重桜が、植わっていると思います。本数を数えたことはありませんが、桜地図が出来ている様です。この木は別として、全く同品種のものが、上野市予野にある花垣神社の境内で大切に保存されているそうです。平安時代からですから何度も世代交代されたと思いますが、知足院のものより樹齢が経っているように思えます。

双方の生育地を確かめるため現地に出向いてみたところ、知足院も寂れ、裏山の桜は、見るのも気の毒な姿で、周囲は竹と雑木がはびこり、開花はしていましたが、辛うじて生育している状態でありました。指定された原木は、どうしたことか、根元に別の種類の桜が数本上がっていました。これは、確かに接ぎ木台が芽を出したと思われます。発見から80年経過しているため元の木は枯れてしまったので、その後に接ぎ木されたものを植え付けたのでしょう。元あった桜も石碑の立っている場所に植え付けられたものか、自然に生えていたものかは分かりません。指定された周囲にも数本の奈良八重桜が、植え付けてありました。この様な状態では、何時まで生育出来るか分かりません。天然記念物が枯れてしまってもその子孫があるのですから、もっと手入れをしなければなりません。可憐な花は咲き始めでしたが、将来この場所は、桜にとって最悪の場所になりつつあります。

上野市予野にある奈良八重桜は、同じ桜であっても昔から花守によって大切に保存され、現在まで生育出来たのです。今では保存会の方々によって前以上に手厚く手入れされている様です。しかし、その甲斐もなく、台風によって主幹が折れてしまったのです。その影響で木が弱り、痛々しい姿をしておりました。一部の元気な枝に取り木を掛けて保存に注いでいる様子が伝わってきました。薄紅色の蕾は、開花まで数日を要するようでした。近くの畑で仕事をしていたお婆さんに、桜の話を聞いたのですが、よく知っておられる様で、親切に話をしてくれました。「桜も私と一緒で年を取ると駄目になりましたよ。昔は本当に綺麗に咲いてくれました。木が古いから台風で折れましてね。樹医さんが来て、手入れをしてくれましたけど弱りましたね。この木は、他にありません。大切に大切に手入れされていました。昔は花守さんがいてね。今でもそのお宅はありますよ。遠い所からよく来て下さいました。区長さんに言っておきますよ。私も桜の花が好きで、色々な種類を挿し木しました。今では、名前も忘れてしまいました。今年は、花が早い様ですね。花見の会（観桜会）が毎年ありますが花が終わってしまうかも分かりませんね。早くも出来ませんしね。よう来て下さいました」。お婆さんは本当にこの桜のことが好きな方で、この桜に関係されておられた方かも分かりませんが、そこまで聞きませんでした。この桜も県の天然記念物に指定されています。同じ桜でも人に愛されながら育っているのと名ばかりの形だけの手入れをされたものとでは、比較にならない程の違いがあります。

文華苑に植え付けて頂いた奈良八重桜は、東大寺知足院の天然記念物の桜、上野市予野にある花垣神社の桜、奈良県庁の駐車場脇に植え付けてある桜、また、その近辺に植え付けてある奈良八重桜と全く同じものでありました。奈良八重桜の生息地を確かめるために出向いたのですが、その成果は、色々なことを発見するきっかけになったことであります。

今後、大和文華館の文華苑に、奈良八重桜が生き付き、少しでも多くの花を付け、来館されたお客様に感動を与えてくれることを館員一同願うものでございます。

（管理部保安　大平良一）

季刊 美のたより №139
平成14年７月５日
発行　大和文華館

Copyright ©2007 The Museum Yamatobunkakan. All Rights Reserved.